

## 2015年 エベレスト遠征登山 報告書

東京経済大学経営学部経営学科 2年の伊藤伴です。このたびは皆様から多大なるご支援ご協力を賜りました。本当にありがとうございました。しかしながら4/25にネパール大地震が起きてしまい、登山を中止せざるを得ない状況になってしまいました。結果的に日本人最年少での登頂を果たすことができず、皆様の期待に応えることができませんでした。

4/9 成田空港からマレーシアのクアラルンプールを経由しネパールの首都カトマンズへ。翌日はカトマンズにてパッキングや、現地で使用する携帯電話の準備、ネパール観光省でのブリーフィングなど登山に必要な準備を進めました。

翌日、首都カトマンズからエベレスト街道の玄関口であるルクラへのフライト。通常カトマンズ〜ルクラ間のフライトは欠航が多いのですが、今回は運よく飛ぶことができました。ルクラは標高 2800m。僕らはここからエベレスト BC (ベースキャンプ) までの約 2 週間のトレッキングを開始します。ナムチェバザールやタンボチェといった有名な村を通り、タムセルク、アマダブラム、カンテガ、アイランドピーク、タウツェ、チョラツェ、ローツェ、ヌプツェ、エベレストなどのヒマラヤの高峰を眺めながら標高 5000m のロブチェ BC へ。ここから、高度順応のためにロブチェイースト (6119m) に登ります。

ロブチェイーストは主に雪の斜面の登坂で、所により 35 度くらいの斜面を登って行きます。ロブチェイーストはキャンプが 1 つしかないため、BC からは 2 日で登れます。今回私は 2 回目でルートも分かっているからなのか、前回よりだいぶ楽に登る事が出来ました。頂上からは少しだけですが、目指すエベレストも見ることが出来ました。頂上にだいぶ滞在したため順応を引き上げられたのではないかと思います。

その後エベレスト BC へ移動です。標高 5300m。クーンブ氷河の上。世界最高峰の頂を目指して世界各国から多くの登山者が訪れます。エベレスト BC はとても広く入口から一番上まで歩くと 30 分以上かかります。僕の参加した登山隊は毎回一番上のほうにキャンプを作るのですが、今年は場所取りが出来なかったのか、真ん中より少し上の方にキャンプを設置しました。僕らは BC で 2, 3 日休養しさらに高度順応を進める予定でした。

4/25 BC 滞在 2 日目。この日も休養日です。みんなでダイニングテントでおしゃべりをしたり、お昼ご飯は何にするかななどの話し合い、その後シェルパ達がダイニングテントを整理するという事で全員一旦各自のテントに戻ることに。私と近藤隊長を含めた 5 名は無線など機械系のあるドームテントに向かいました。そこでくつろぎながら談笑していました。すると突然地面が揺れだしました。すぐにテントから出ると、まだ揺れています。私は氷河の異常で氷河が割れるのではないかと、陥没するのではないかと思いました。すぐにビデオを回し始めると雪崩の音です。しかし、この日は天気が悪く厚い雲が低い位置まで覆っており雪崩本体が目視できません。雪崩はヌプツェ、アイスフォール、エベレスト

西陵、ローラの方から来ると思いカメラを向けていました。すると突然悲鳴が。振り返るとプモリの方からすぐそこまで火砕流のような爆風が迫っています。高さは100m。速度は時速200km。普段見慣れた雪崩とは明らかに規模が違います。私はパニックになってしまいました。近藤隊長が爆風から逃げるように崖を駆け下りていきます。私も「近藤隊長についていかないと」と思い、必死についていきました。この時みんなサンダルでした。今思えばよく崖をサンダルで降りられたなど。なんとか仏塔の陰に隠れた瞬間、爆風に飲まれました。ものすごい風と雪。近藤隊長が「口押さえろ！！」と何度も叫んでいます。私は口を押えながら怯えていました。爆風が少しおさまると周りにいない人達の名前を叫んでいました。何人かで爆風がおさまるまで身を寄せていました。

雪崩がおさまり、上に戻ると辺りは悲惨な光景が広がっていました。ダイニングテントや、エレクトリックテントは20m以上吹き飛ばされ、僕のテントは崩壊。周りの他の隊のテントも吹き飛ばされたり、崩壊していました。僕らの隊員は運良く打ち身程度の怪我で済みました。

近藤隊長が衛星電話で確認すると、この地震はネパール全土で起きたもの。ここエベレストBCでも18名の死者、多数の負傷者が出てしまった事がわかりました。うちの隊は隊員に負傷者が少なかったため、レスキューに向かいました。そして、私たちが雪崩だと思っていたものは、実は懸垂氷河の崩落による爆風とわかりました。

その後、数日はBCに閉じ込められました。私たちの隊はダイニングテントを失いみんなで集まれる場所がありませんでした。

あれだけの爆風を受けて精神的にダメージを受けています。その為一旦、一番近くの村まで下山し、体制を整えることになりました。しかし、私たちが休養している間にエベレストに登るすべての隊が登山の中止を表明しました。つまり私たちも登山を中止せざるを得ない状況になってしまいました。そのことを近藤隊長から聞かされた時はショックでした。ここまで来るのにどれだけ大変だったか。そして応援して下さった日本の皆様にもどのように報告したらいいのか。それをずっと考えていました。

下山することが決定したわけですが、すぐに下山しても恐らくまだルクラの空港は混乱しているだろう。それなら私たちがいつもお世話になっているロッジに泊まりながらゆっくり降りよう。ロッジに泊まってご飯を食べてそこでお金を使うことでも支援に繋がると考えたのです。そうして普通なら3日で降りられるエベレスト街道を6日かけて下山しました。

カトマンズに降りてきたわけですが、私たちはこのまま日本に帰らず自分たちのできる範囲でボランティア活動をしてから帰ろうということになりました。BCで爆風を受けた後、僕らはすぐに家族や大学に連絡が取れたのですが、シェルパやキッチンスタッフは家族とも連絡がつかず自分たちの村がどうなっているかも分からない状況でした。にもかかわらず食事を作ってくれたりテントのかたづけをしてくれたりと、私たちのために働いてくれました。その恩返しの意味も込めてボランティア活動をすることを決めました。

私たちはまずネパール政府にボランティア活動をする為の許可を取りました。そして政府からダルマスタリという首都カトマンズから車で 1 時間程の村に支援をしてほしいと頼まれ、ダルマスタリを中心にボランティア活動を行いました。当初はガレキ撤去などを手伝おうと考えていたのですが、ネパール全土で未だ余震が続いておりその度に建物が崩壊する為、主に被害状況の確認とその情報発信、支援物資の供給を行いました。

私たちに出来ることはとても少なかったのですが、私たちがネパールに滞在しホテルに泊まりレストランでご飯を食べお土産を買うことが少ないながらもネパールの経済復興になります。それも間接的な支援だと思います。

ネパールはまだまだ発展途上の国です。復興には多くの時間と支援が必要だと思います。私はこれからもネパール復興に少しでも力になればと思います。

以上、2015 年エベレスト遠征登山報告